

各店舗からのお知らせ

スワンベーカリーさがみはら店

店頭販売の他、お電話でパンの注文も承ります。ご注文は商品受け渡し日の2営業日前までをお願いいたします。ホームページで新商品や期間限定商品、定番商品の紹介や、スワンの日限定イベントの告知を行っていますので、是非ご覧ください。お祭りや催し会場へ出店販売いたしますので、ご相談ください。ご依頼をお待ちしております。

所在地：相模原市南区麻溝台 7-1-7

営業時間：10時～16時（定休日：土・日、祝日）

TEL：042-749-8881 FAX：042-749-8808

毎月16日はスワンの日

※16日が休業日の場合は、日にちが前後します

スワンの日限定セールやイベント情報は、ホームページをご覧ください。
<https://www.suzuran.or.jp/swan/swan>



Cafe ふうらっと

平日限定の日替わりランチは、ボリューム満点510円！！

丼ものやパスタ、定食やワンプレートランチなど、旬を取り入れながら毎日違ったメニューを提供しています。近隣の事業所が作っているカレーライスやコーヒー、すずらんの家の焼き菓子等も店頭で販売しております。香りの良い挽きたてコーヒーは絶品！ゆったりとくつろげるCafe ふうらっとにぜひお立ち寄りください。

所在地：大和市鶴間 1-19-3（鶴間駅から徒歩10分）

営業時間：11時～16時30分（定休日：日曜、祝日）

TEL：046-265-5198 FAX：046-260-0238

<https://www.suzuran.or.jp/jiritsuyamato/cafeplat.html>



すずらんの家

所在地：相模原市南区新磯野

2-11-5 1F

営業時間：9時～17時

（定休日：土・日、祝日）

TEL：042-747-2418

FAX：042-747-3805

<https://www.suzuran.or.jp/suzurancake/suzurancake.html>

すずらんの家では、店頭販売の他、お電話やFAXでもご注文も承っています。期間限定の商品も取り揃えており、10月の限定商品として、コーヒーシナモンのシフォンケーキが絶賛発売中となっております。ぜひこの機会に、すずらんの家のお菓子をご賞味いただき、ファンになっていただくと嬉しいです！皆様のご来店、ご注文をお待ちしております。



お知らせ

この度、新型コロナウイルスの影響により、秋に開催を予定しておりました“フェスタすずらん2020”を中止することといたしました。

毎年楽しみにしていただいていたみなさまには、大変残念なお知らせとなりましたが、何卒ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。今後のイベント開催につきましても、都度検討してご案内いたします。

2020年4月1日新卒採用職員

氏名	所属
田坂 友美	ワークショップ・SUN
大谷 菜	グリーンハウス
中ノ瀬 育美	ワークセンターやまと
鈴木 百葉	ばれっと
土屋 麻里奈	ばれっとやまと

編集後記

今号では、食品を製造・販売する事業所や移動支援事業の現状をご紹介します。

『With コロナ』という先行きの見えない状況下でも、プラスの視点を持って日々取り組まれている利用者・職員の皆さんに、すずらんの会のチカラを感じた特集となりました。（広報委員会）

マスク等物資のご寄付に感謝申し上げます。

星が丘地区社会福祉協議会（相模原市社会福祉協議会）様

川角 敬治 様

複数の企業・団体・個人の方からマスクや消毒液など大変ありがたいご寄付を頂戴しました。地域の皆さまからのご理解と温かいご支援は、職員一同、何よりの励みになっています。この場を借りて御礼申し上げます。これらご寄付頂いたものは大切に使用させていただき、効率的な運用に努めてまいります。

広報 すずらん

発行日：2020年10月1日（1996年創刊）

発行元：社会福祉法人すずらんの会 理事長 松屋 直人 URL：<http://www.suzuran.or.jp>

所在地：〒252-0328 神奈川県相模原市南区麻溝台 7-6-4 TEL：042-745-8080

編集：広報委員会

2020年

10月
第77号

余暇のニーズに応えるために

緊急事態宣言の解除後も、感染拡大を予防する「新しい生活様式」に基づく行動が求められており、外出や余暇活動等の支援を行う事業所「あいあいS（移動支援事業）」でも、様々な影響を受けています。今号では、今どのようにサービスを提供しているかを、サービス利用者へのインタビューも交えながらご紹介します。

4月～5月にかけて発令された緊急事態宣言の影響は予想以上に大きく、例年であれば屋外イベントへの参加や映画鑑賞、水族館やショッピング等、楽しく過ごすのゴールデンウィークの活動も例外なく自粛せざるを得ない状況となりました。

利用者の多くは新型コロナウイルスにより外出の機会が著しく減ったことについて理解されていましたが、生活の変化からの運動不足は否めませんでした。そのため、この時期に「あいあいSができること」として、混雑を避け1時間程度のウォーキングや公園の散歩等、身体を動かし健康を維持する為の活動を続けてきました。事情によっては「居宅内で一緒に過ごす時間」も臨時的に移動支援として行政に認めてもらい、求められている必要な支援を続けてきました。

緊急事態宣言が解除された今も不安は続いているですが、最近では屋外での活動に加えて、感染予防対策を実施している店舗内の食事や、混雑を避けながらショッピング、映画鑑賞やスーパー銭湯を楽しむこと等が出来ます。職員が商業施設等の状況をあらかじめ確認して情報共有を図り、徐々に活動範囲を広げ、時間も長く対応できるようになってきました。

公共交通機関の利用はまだまだ注意が必要であるため、以前のように街へ出かけて楽しめるようになるまでは時間がかかることも予想されます。しかし、法人の感染予防マニュアルに加え、あいあいSで独自に作成した『ガイドヘルプ活動時の感染予防マニュアル』を活用して、日々の変化を敏感にキャッチし、常に感染予防を意識して余暇活動のニーズに応えています。

～利用者への取材～

今も余暇活動の制限が続いている60代男性（施設利用者）、40代女性（就労者）へ、自粛期間中の過ごし方等についてインタビューを実施しました。

■自粛期間中の日常生活はどうでしたか？

（60代男性）時差通勤等の制限はせず、平日は施設に通所して作業をしていました。

（40代女性）総合衣料品販売店に勤務しています。勤務時間短縮等の要請はなかったため、通常通り出勤しました。

家族・友人等との接触はしないようにしましたが、家族が病気だったのにお見舞いに行く事が出来ず心配でした。

■自粛前後のガイドヘルプサービスの利用状況は？

（60代男性）普段は月に2、3回利用して、カラオケ、銭湯、水族館等へ行っていました。ガイドヘルプサービスを利用すると色々な人と話が来て、良い気分転換になります。自粛期間中は遠くに出掛ける事や、カラオケ利用の希望を出しましたが、利用できない事があり困りました。今はマスクを着用してウォーキングの活動を楽しんでいます。

（40代女性）自粛前は毎週のように利用し、映画・カラオケ・新大久保で大好きな韓流グッズ探し、入浴等へ行っていました。にぎやかな場所が大好きです。自粛期間中は月に2回ウォーキングをしていましたが、夏の暑さで疲れてしまい9月は利用しませんでした。その分ゲームをする時間が多くなり、スマホ料金が高くなってしまいました。

■自粛期間中、余暇を楽しく過ごせましたか？

（60代男性）カラオケやボウリングには行けませんでした。しかし、グループホームで行われたカレーパーティーで、他事業所とリモートでつないだりして、みんなで楽しく食べました。統括世話人が調理してくれるなど、いつもと違う雰囲気でした。

（40代女性）仕事のスケジュールの都合で、法人の余暇活動にはもともと参加ができませんでした。普段は主にグループホームでの合同行事に参加しています。今はコロナウイルスの影響で合同行事はありませんが、誕生日にはグループホームで誕生日パーティーをして楽しみました。

～取材を通して～

以前よりガイドヘルプサービスを利用されていたお二人ですが、自粛期間中は様々な活動が制限されることによるストレスを少なからず感じていたようです。今回取材した方に限らず、余暇の機会が制限された事で、日中の生活にも影響が出た方が多くいます。余暇の活動が日々の暮らしの中でいかに重要であったかを強く感じた自粛期間だったと思います。

6月末まで原則中止となっていたガイドヘルプサービスですが、7月より徐々に活動を再開しています。予防対策に配慮して活動ができるように努めており、安心して利用できる体制を整えているように感じました。

特集：販売作業を通じた社会参加と自己実現

すずらの会では、焼き菓子やパンを製造し店舗販売している事業所や、カフェを運営しランチメニューなどを提供している事業所があります。商品の売上げが利用者のみなさんの工賃となることはもちろん、販売や接客を通し、仕事の達成感や充実感の獲得に繋がる場面も多々あります。また、お客様との交流や、販売先との関りを通し、利用者の皆さんの社会参加を支援しています。今回は、自主生産品として食品を販売している事業所にスポットを当て、販売の現状や利用者の様子、おすすめの商品などについて紹介いたします。



(写真：イベント販売を通じた地域交流の様子)

地域に根付いたお菓子屋さんを目指して (すずらの家)

すずらの家では、オリジナルのレシピで製造している焼き菓子を中心とした商品を販売しています。店舗の周辺には遊歩道があり、散歩途中にふらっと来店される常連のお客様もいます。また、特別支援学校、高齢者施設、一般企業等への移動販売もおこなっています。

地域の催事やイベントで販売する時は、おそろいのオレンジ色のエプロンを着用して出向いており、お客様から『あら！ここでも販売しているのね。』と声をかけていただくなど、販路を拡大して行く事で少しずつ地域の皆さんに認知されつつあります。

販売を通してお客様から声をかけていただくことはとても嬉しいことです。接客を担当する利用者の中には、嬉しい気持ちと、恥ずかしさで俯いてしまう方もいます。そのような時は、職員から返事を促す声掛けをするなど、利用者のみなさんが販売を通して積極的にお客様と交流できるように、支援をしています。また、一生懸命製造、販売に取り組んだ商品の売上げが、利用者のみなさんの工賃になり、その結果も一つの励みとなります。作業工賃は、毎月各口座に振り込み、利用者には明細書をお渡ししています。明細書の数字だけでは、「お金を稼いでいる。」という実感に繋がりにくい方もいます。その為、工賃支給日に保護者が実際のお金を見せて、『これが、あなたが頑張って働いて得たお金です。』と伝えているご家庭もあります。働いて得た工賃は、自分の欲しい物の買い物や、余暇等に使用するなど、地域社会の中で楽しく生活する一つの繋がりにもなります。

自主生産品を販売する仕事は、利用者にとって自分が関

わった商品が販売されることや、お客様がそれを購入する姿を実際に見られること、そして何より、お客様からの『クッキー、美味しかったよ。』といったお言葉をいただけることが、プライスレスな喜びとなっているのは間違いありません。



(写真：すずらの家 店舗の様子)

販売の現状と今後の展望

昨年度までは、製造・販売の年間スケジュールがほぼ決まっておりましたが、今年度は、新型コロナウイルスの影響で、菓子の製造計画や販売計画が大きく変わってしまいました。また、移動販売先では、学校の休校、部外者の施設内立ち入り制限、企業等ではリモートワークによる出勤者数の減少などにより、例年に比べて売上げが落ち込んでいます。さらに、地域の催事やイベントもほとんどが中止となってしまいました。

新型コロナウイルスに関しては、まだ先の見えない状況であり、【with コロナ】として今後も対応を検討しなければならないと考えています。そのような中で、作業に余裕ができた状況をプラスに捉え、これまで手の付けられなかったことに着手する時間が出来ました。

具体的には、これまでは固定化されがちだった利用者の作業の役割分担について、様々な作業種に携わり、経験や挑戦をする機会を設けました。慣れない作業に緊張される方や、慣れるまで時間がかかる方もいる一方で、新しい作業に対して目を輝かせて取り組まれる方や、徐々に興味を示される方もおり、とても貴重な機会となっています。こうした経験や挑戦が、今後も美味しい焼き菓子等の提供に繋がるようにしていきたいと思っております。

(すずらの家)

カフェで育む地域交流の輪 (Cafe ふらっと)

大和市障害者自立支援センター内で営業している「Cafe ふらっと」は、気兼ねなく、ふらっと立ち寄れるカフェとして地域の方々に親しまれています。

ランチの時間には、近隣にお住まいの方や会社員の方々が食事をしにいらしたり、地域のサークルや活動団体の方々が打ち合わせや活動で利用され、合間に淹れたてコーヒーを味わってくださったりしてにぎわっています。

また、カフェでは大和市障害者自立支援センターの就労移行支援事業を利用している方向けに、接客体験プログラムを実施しています。カフェの業務ではイレギュラーな事も多く、臨機応変な対応や、お客様優先な姿勢がとても大切になります。これまでは、人と会話をするのが苦手だと感じていた方が、接客を行う中で、常連のお客様から「美味しかったよ。」「ありがとう。」など、声を掛けていただいたことで、自信が生まれ、就職へ繋がった方もいらっしゃいます。接客体験をする事で、実際のお客様の反応を直に見られる事は、就職を目指す上では非常にプラスな体験となります。

営業の現状と今後の展望

3月～5月末までは、新型コロナウイルス感染防止のため、店舗の営業をお休みしていましたが、6月より飲食店のガイドラインに基づき、客席の間隔を保ち、対面での利用を避けること、レジ前のパーテーションの設置、手指消毒や検温をお客様にご協力いただき、営業を再開しました。また、長くお休みをしていたため、営業再開を知らせる案内とともに、新たにポイントカードを作成し、地域の方やお客様に配布しました。依然として、団体でのご利用やカフェライブの実施等はできない状況ですが、少しずつお客様が戻り、カフェにも、接客体験プログラムに参加する利用者にも活気が戻ってきています。今後は、席数の確保、対面対策のためカウンター席の導入や、座席の配置等を工夫し、お客様も利用者も安心して過ごせるカフェスペースをつくってまいります。

(大和市障害者自立支援センター)



(写真：感染防止対策を施したカフェスペース)

パン製造・販売に誇りとプライドを持って (スワンベーカーリーさがみはら店)

グリーンハウス内にある「スワンベーカーリーさがみはら店」では、パンの製造と販売を行なっています。ログハウスでの店舗販売に加え、取引先企業、学校等への移動販売・お祭りの催事販売等、地域の方々と交流する機会も多くあります。顔見知りになったお客様からは、「こんにちは。」「最近見かけなかったから心配したよ。」と声をかけていただけることもあります。時には、お客様から利用者に商品の説明を求められることもあり、緊張しながらも商品を説明する姿を温かく見守っていただいています。

販売時は、完売することを目標にしていますが、時期や天候に売上げが大きく左右されることもあります。「いらっしゃいませ。」「パンは、いかがでしょうか。」と一生懸命に声を出しても、残念ながら売れ残ってしまうことも多々あります。販売を担う利用者の皆さんは、その都度、セリフや声をかけるタイミング等を試行錯誤して、1個でも多くのパンが売れるように日々職員と振り返りを行ってまいります。こうした積み重ねで、利用者も完売を目標にすることが定着し、プライドや誇りを持って販売に行くことが出来るようになってきました。販売から施設に戻った際に、「完売しました。」と報告する時は、とても嬉しそうに誇らしげです。

販売の現状と今後の展望

現在、大学や高齢者施設等での販売の一部や、今年度予定していたイベント等での催事販売のほとんどが新型コロナウイルスの影響で中止となっています。そこでログハウスの販売促進として、毎月16日の『スワンの日』に工夫を凝らしたイベントを始めました。数量限定のお買い得価格での販売や、10%OFFセール等、集客イベントを行っています。また、事前のポスティングでは、グリーンハウスの活動班の協力もあり、毎回600枚以上のチラシを近隣へ配布しており、グリーンハウス全体でパン販売を盛り立てています。そのおかげもあって、『スワンの日』には、開店前からお待ちいただくお客様もいらっしゃる程ご来店いただいております。

(グリーンハウス)



(写真：店舗での販売の様子)

